

**<令和5年度 横浜市学力・学習状況調査結果分析>****令和5年度 横浜市学力・学習状況調査 平均正答率****<2年>**

	国語 (%)	算数 (%)
<b>横浜市平均</b>	<b>54.9</b>	<b>64.4</b>
<b>北山田小2年</b>	<b>61.5</b>	<b>67.1</b>

**【成果】**

国語では、文学的な文章の読み取りができています。

算数では、知識・技能の積み重ねがしっかりとできています。概ね市平均を上回っている正答率である。

**【課題】**

国語では、身近なことを表す語句を使った文章の作成ができていない。

算数では、数の変化や規則性を見いだす力が弱い。

**【今後に向けて】**

国語では、身近な語句の獲得ができるように、習ったことを生かして成果物（ガイドブックなど）を作成し、学びを深化させる活動を十分に行う。また、読書を通してたくさんの文章表現になれ、語句に親しむことができるようにする。

算数では、基点の変化に対して、規則性に注意しながら解答できるように指導する。また、立式の方法をていねいに確認しながら、問題を読み取り立式の練習を十分に行う。

**<3年>**

	国語 (%)	算数 (%)
<b>横浜市平均</b>	<b>65.0</b>	<b>70.8</b>
<b>北山田小3年</b>	<b>63.8</b>	<b>73.2</b>
<b>前年度より 学力が伸びた 本校児童の割合</b>	<b>81.2</b>	<b>75.4</b>

**【成果】**

国語では、全体的に2年生の時よりも正答率が高くなっている。特に伸びているのが、国語への学習意識と説明的な文章の理解である。

算数でも学習意識が高まっている。特に平面図形に関しては、自信をもって取り組んでいる。

**【課題】**

国語では、漢字の定着ができていないことで、文章を把握することが難しくなっている。また、登場人物の会話や様子等から内容を想像することが苦手。

算数では、乗法（九九）の学習が定着していないところが挙げられる。また文章から情報を整理し、グラフに表したり立式したりすることが困難のようだ。

**【今後に向けて】**

国語も算数も、漢字・乗法（九九）など学習の基礎基本の定着が求められる。そのため漢字マッキーノや九九ビンゴなどただの暗唱でなく、楽しみながら繰り返し練習する方法を取り入れながら学習の土台を養っていきたい。

特に国語では、漢字が定着しておらず正確に文章を読み取ることが困難である。そのため、かち書き(ルビ付き)を採用し語彙を区切って読むことで、台詞や行動、様子を表す文章に着目できるようにし、主人公の気持ちや場面の移り変わりを捉えられるようにしたい。この力が付くことで、算数の課題である、文章から情報を整理し、立式することができるようになると思う。

#### <4年>

	国語 (%)	算数 (%)	理科 (%)	社会 (%)
横浜市平均	59.8	72.0	75.9	74.2
北山田小4年	66.0	71.3	76.9	77.8
前年度より 学力が伸びた 本校児童の割合	78.4	65.9		

##### 【成果】

各教科の各観点ともに市の平均を概ね上回っている。国語では、「説明的な文章」を読み取る力の伸びが大きい。算数では、「答えを確かめたり、求め方を振り返ってよりよい方法がないか考えたりしている」という問いに対して、「だいたいしている」と答えた児童の割合は約90%だった。少人数で自分の力に合った環境で学習を進めてきた成果が表れていると言える。

##### 【課題】

それぞれの教科を学習するよさに気付いているが、どの教科でも学力差が大きく、正答にばらつきがある。特に算数の「空間図形」では、「立体図形の構成要素を、用具(分度器やコンパスなど)を使って適切に測定する」力や、「立体図形の特徴を多面的に捉える」力が十分に身に付いていない児童が多い。

##### 【今後に向けて】

どの教科でも友達同士で自分の意見を伝え合ったり、考えを説明したりする時間を意識的にとり、正答に至るまでの考えを深められるようにする。少人数算数では、引き続き学年で連携を取りながらそれぞれのコースの課題に合った学習方法や支援内容を考え、実践していきたい。

#### <5年>

	国語 (%)	算数 (%)	理科 (%)	社会 (%)
横浜市平均	63.9	73.7	64.5	65.9
北山田小5年	66.4	78.0	65.1	66.8
前年度より 学力が伸びた 本校児童の割合	86.8	69.2		

##### 【成果】

各教科の各領域、各観点ともに市の平均を上回っている。特に国語は学習意識が前年度より高くなり、学力も上がっている。算数は、80%近くの正答率で各領域において安定している。

##### 【課題】

国語では「ポスターを読んで理解したことに基づいて、自分の考えをもつ」の正答率が市の平均を下回るなど「文章や資料を読んで自分の考えをもつ」力が十分身に付いていない児童が一定数いる。

##### 【今後に向けて】

国語では、情報資料を読み取り、理解したことについて自分の考えをまとめる機会をこれまで以上に意図的に設ける。さらに、自分たちの生活や学習に結び付いた興味のある情報資料を用いて学習に取り組めるようにするなどして、意欲的な言語活動を促していきたい。「楽しい国語学習」をテーマに学習意識をより高め、学力向上につなげる。

## 〈6年〉

	国語(%)	算数(%)	理科(%)	社会(%)	外国語(%)
横浜市平均	60.8	61.7	55.2	68.8	87.0
北山田小6年	61.3	63.9	55.1	67.1	88.8
前年度より 学力が伸びた 本校児童の割合	61.6	65.8			

### 【成果】

各教科において、おおむね市の平均を上回っている。

### 【課題】

国語では、知識・技能が市の平均を下回っている。

算数では、表やグラフの読み取りが市の平均より大きく下回っている。

理科では、思考・判断・表現で市の平均を下回っている。

社会では、特に「農業」「自然災害」についての事象や相互関係を理解することが市の平均よりも正答率が低い。

### 【今後に向けて】

全体的には、学んだ「知識・技能」を生かして、「思考・判断・表現」する力が弱いという面がある。基礎基本をしっかりと指導するとともに、学んだことを生かして、どう表現するかや、話し合いなどの活動を活かし、自分の思いや意見を交流できるようにする。また、他者との考えについて違いを比べたり、同じところを見付けたりしながら、自分の考えに生かすような学習を取り入れられるようにしたい。